

市社会福祉協に車いす110台寄贈



車いすと一緒に記念撮影する関係者

安城南LC

安城南ライオンズクラブ(杉浦弘昌会長)はこのほど、安城市社会福祉協議会に車いす計110台(約330万円相当)を寄贈した。結成50周年を迎えた記念事業の一環。主に安城市内の81町内会などに分配し、歩行が困難な高齢者の移動や

災害発生時の避難用などに役立てる。

安城南LCは1967年7月、安城LCをスポンサークラブに結成。ことしで50周年を迎えた。

車いすの寄贈には、安城市の人口増や高齢化に伴い、車いすの貸し出しが増加している背景がある。貸出用の車いすも老朽化し、新たな車いすの調達が必要になっていったという。安城南LCが50周年事業の一環として、地域の福祉サービス向上に一役買う。

車いすの購入には、世界中のLC会員からの寄付金「LCIF」の一般援助交付金を活用した。大人用の車いす100台と、子ども用の車いす10台の計110台を用意した。

ける予定。町内会への分配は初めて。各町内に備えることで、足が不自由な高齢者が町内の催し物などに参加しやすいよう配慮するほか、災害発生時には避難用として使える。

安城市赤松町の市社会福祉協議会総合福祉センターで寄贈式が開かれ、安城南LCの杉浦会長から安城市社協の神谷明文会長に寄付目録が手渡された。

神谷会長は「車いすのままとまった寄贈は、地域の福祉サービス向上には絶大な効果がある。言葉が見つからないほど」と感謝の念を示した。

杉浦会長は「50周年として、LCIFの基金を活用して通常より大きな事業とした。地域の福祉サービスの向上はもちろん、今後も

81カ所の町内会に1台ずつ順次分配するほか、8カ所の福祉センターにも備え付した。

今後、社協を通じて市内81カ所の町内会に1台ずつ順次分配するほか、8カ所の福祉センターにも備え付した。

(安城)